羽黒
月山
湯殿

三山雜集

下之
二

緣起事跡
詩歌連作

ル 4
4905
3

門ル4
1905
巻 3

元興寺

宝物
聖徳太子
遺物

堂の約なり今ハ荒ほれて僅に
礎石由来ハ記せ

權現森

一名を寇森と唱へ乃ち東北方にあり伊豆郡月山
權現遊戯ほ是ほなり郡月三日八月八日二季ほ祭
供別当修験代参拝を初春ほ二日八月二日ハ開戸閉戸
聖之院あり別当修験饗を八月八日ハ經堂
院あり右ほ饗庭あり むとうとは乗り月山ほ
室ほ住ひと下ひ規式をなるに今ハ此あるなし
の礎ばかりなり寇森と名ぜくる事を寇ハ月山ほ住

38- 4648

たゝずみけるかくハ云ながら近年まで叢林の境致
堂までのこりて浴戸開閉の氣色あり

二萩池

月山権現離宮の舊跡寂寞として月の二
夜が朝夕とりかくいひつげ行昔常の假山屋てうの
それ懸隔なる美景にしてわけて月の夜ごろの池畔
奥深にて満々と湛て洞庭の形勢を移しけるかと
おもはれ侍るに今ハ流れ経堂跡の境内をめぐり
湛たり

名月や嬉しさ遠ひゆく月の　　嵐雪

述懐の雨そゝぎけりいらつ鴫　　呂茄

よきかなや月の宮まうしの谷　　李山

兒堂

兒童の木像あるは奥州信夫郡佐場庄司何某の
嫡子若狭丸といへるは幼年より母にわかれ稠
山寺に阿闍梨に随へる佛教を身とゆるの侍る
容貌つたなき美麗なりけれバ山中の徒僧等
弱しハ悉く尼寺に谷合早く思ひしかして頭を
黙聲にて隱せん谿ハ此所にて納めおくとや経堂の境に
無縁回向の職あれバとて此の堂を造立し長寿の
術善根を勧めけれ刀筏撥しといへる謡ハ継母が
嫉より此の兒をむかしく殺さんとせしに明王の慈悲

ちいばれと雖なりの名るう一音曲をしばらく音乃ふ
作りなせるうやー事乃たうふうの此温泉まんさう

児乃長寿　　東水

陸奥の　志の家雄おかさりき　ゆうとほき　後筒と
為紫乃　年なうう　名ぢうちめの　のちれなん　著れ枕の
あうう世代　ほうの世代の山でうふ　かさふうつ　事うなし
ちうとこうて　ちうかうれ　法れ月新　新さうれ　谷の姿い
業うるまん　ふるめを　弾ちう移を　さぐれさ母の　神ミうり
罪なれ　ほうとうう　ちうさ業　ちびめーに　誠さがうぬ
陸伸乃　浦さ　ほうを　稲母乃　かつて沉む　母れ方の
洒ちうさ　なうめうく　ほうの人と　いうこいつ　事れ為れ

四ん乃ちう　ふるれされう　ちうかさ　ちうと移事の　久ちうう
ちれうと中　うとれ山　やまど事ふ　奥山や　ちうれ移
玉ちこうん　乃約人と　立うあうと　ふぬ世代の　埋ちうう
名のうれう　ふ乃香を　ふーなうい　あれうふよ

五月雨

ちうとうるむれ　ふれ山ちうむ　ちうくしぐく　入金れ情　水軒

いけれ方ふと　誠れふ　せう成山ふ　ふれ立とうう　れ

春毎寺ちう庭　いれ　ねうる　毒うど沼　浮生

痛いく　誠れ行　ちうる　ちう　ふう郭　呂丸

ふうう　い後れ　胃ふ　ぶりふむ　四ん　ちう　拳月

それ眉の細き涼しさ三ケ乃月　洲水

荒澤　附不動堂

路ハ是れを奥の院あり新道門より不動瀧より流れたる洞のいとさまよきもの橋より右の方ニ不動堂ニ往詣の輩ハ瀧泉を濯ぎて六ツの根をきよめる所の王那被の智力ハさのうへ月山湯殿の登山嶺を経てのぼりて奥院の境内苔滑(ナメラカ)にしてせきを踏し月路にして毫光の感ぜて古松老杉軒平としてあり霖雨の寒さを凌ぎ車馬僮語の囂(カマビスキ)を離て唯(タダ)幽禽の妙音を待つのミ庚申堂大日堂十王堂常行堂千躰地藏堂あまた数の堂社あつかしまかり利益の施

しのへ

時秋秋水澄荒澤　京紫松風風味濃　實傳

元亮攢眉帰去後　猶聞蓮社の中鐘

次韻

秋來荒澤寂寥處　苔滑水清興味濃　海秀

萬頃澄心依石坐　社中聲接暁昏鐘

荒沢より諸く聖泉寺迄の道の辺　氷軒

紫の雪のあられの冬をも山頂のちかき居なからん

藤のうつ鰻(ウナギ)ゆかしらの山のいとも　京　團水

谷水の流あびらんにたらしらうかん　叶　矢　浮生

ぬれ猿芭蕉の女禁制なるまか　呂丸

荒沢は冬ちんめりて草うれ　志内紫庁
山わけく草ふれ鄙うる　米沢文志
花言ぐ山石ふ本宛ゆらぐし　梨水
家乃はとりぐき小むあられ　弾指武仙
張れもう餘る物あ少落れう　李山
六乃根の羅障うをれゆうる　浴衣里石
蜻蛉る昼れ佛一家射千の宗　呉柳
鶯ちはは殻君うもむなり山れ奥　茂伴
音の移世成道れるそうる　アラミ庭水
移りれや帰る清入る水乃秋　此紅
本撫ぐと眠らやゆ滝ふうくおと　亡人松嵐

論同方廣佛華嚴經序　東嶋

[illegible]

經緣起　呂茹

庚申堂北傍[illegible]

[illegible]

傳同法師恒誦法華[illegible]千[illegible]

[illegible]氣矣便往[illegible]王宮[illegible]王見[illegible]

命國[illegible]北來今為師說[illegible]浮提作業能憶持而還本

土勸善誡惡廣行利生同[illegible]四衆罪狀[illegible]經亡日

[illegible]生屯即回六十刀納書寫法華二百部創羽黒

及荒澤於經堂一字彫刻一千本塔婆設一切衆生

成佛し功夫以上下界かくのごとくに乃因縁より經始なし
名ぜず經堂院は境内より星霜後浪なるうちにて
いと貴くゝ古なれ

經堂院　聖ノ院　北之院

奥院は三舎ゝゝ二十一院の内なり年中の業事
水軍の間いと濃ふして院内は霊宝秘蔵なる
多ゝゝ有畧也

開山堂

是は荒法師奥開山乃師なり像の内ゝ有
師為代心浄坊勝尊とゝ延慶二年八月九日入寂
法華経の像も筆ゝ立給ふ法名は豊阿法院作也

勝尊師は本紀伊郡智山の行者ゝして諸國抖擻の願行
高ゝゝ山の山ゝゝ所ゝゝ樹陰ゝ濁世止処ゝ
年あるて唱滅ゝ山ゝ経堂院境内ゝ師の法墓あり石
碑ゝ建ゝ供ゝ法ゝ物ゝ後世の信ゝ
下代ゝ形質ゝ堂宇は慶長年中寂上義異人
奥ゝ則練行ゝ修験入峯の法所ゝ
堂内ゝ七尺ゝ

新迹堂

所創の年代は詳ならず慶長年中寂上義異人
再興ゝ練行あり脇侍は文殊普賢の二菩薩ゝて
入峯修行の法下ゝ寂寞無人ゝの奥地ゝ

編して金剛峯寺の藏書目録を失本逐二種の秘閣を
開く常在靈山の月を望む明かり
寿縁の印を結ぶ誕生會了技

地蔵堂

本尊は舊記に推古帝即位元年四月八日出
現とあり一説に平將門娘如藏尼の願念の本尊
なりとも中古霊験得益あること数多
信仰の人感得多かり俗験入峯の堂乃
ち拜を星別院内の行法して男子は母胎
内に宿れる胞衣在所謂母胎即堂也堂中男
子迴地藏尊也此堂中に月山権現の像を

また幸にこれを記せるこのおいてこれ堂を長寛年中
義異再興之

常火堂

本縁起に曰能除太子大日如來を願禮したまひて
登嶺の初合向ひて生身乃尊像を拜したまひて
法身の尊を求めたまへ太子は膚を脱ぎ煩悩苦は三毒
を消滅したまへ太子は釋天一尊像膚乃ち
則宝殿となり太子は殿堂を隨喜して所作せしもの
なり此は温泉の五味を流出し山嶽湯殿山と
名ぶ奇なる其は太子の誓願あらたかなり
年号殿堂の初一朝の名刹生利度

のたまふ小室嶽に蓋し行の初祖大聖の尼僧
と申す行の人なり法名を法力とぞ
まうす萬世不退乃常住と称して三山往詣乃行者此
を成ぶく行業成たる山伏河の信解をもつて掛乃
臂切不動尊と申す今に蓋し二龍り秘し伝の往詣
此法人器なるべしと法親授なさしむる也
又水板不動尊と申す慈覺大師唐山より
此畫取形離をなすなり水板あるべく大行已滿の
砌に王此を形彫られまつりこれ板に法
親授写し水板不動尊と号す利益巨多なる中に
わけ三山に此形を彫ハ往堂院に
霊佛にまなぶ秘し伝へ
とも法と伝る年往歳にて催化此所作ふ
定光が記ふ
常住と切住と申す上此板より伝る中に開基ハ
不動堂儀式毎年大晦日より験競并紫灯護摩
大松明乃雌雄を決する附勢大民鑽草勝決
年中行事の行形に用乃三山素行乃行人乃
諸國散在此出家修験祈宜神主依志羽黒より
免許に賢住ハ葬送不浄此変に用ふる鑽草
より切住と申す伝る少年常に住寺退の中なるべ
少人なり傷に上中下と申す伝るこのいくばく

川ちあげ為葉と海くとこと大　峯月
秋をしい人間ちたり常史壹　莞兮
六月の布子や濡れ壹史守り　風和

獨鈴清水

為史水ちもヤ作ちやも為史壹れ僧ちあつて清浄の
冷泉奇特ちあるなりしを

野口

蒲沢より出る徑より女人禁制結界れ札あり右ち
常念佛乃蓮社あり安量寿如来観音勢至の三
軀いつれも大佛形ふして元禄年中武陵れ信者
是民ちの聖之院先住俗澄心海偏ち遠ち

れ乃民結ぶくぱ而ち一字民造建し累世不
忘の称名形く宝刹乃ひけ民なり伝る

好望月嶺待纎阿　乘興吟遊吟比丘　實傳
野口雖遍思不野　羽山舊是隆王州
山形ちしへの字数ちすれち新　不角
ほくこさけ北小油動る　新　烏　野井
雲起る岫ち蘭の偉ちれ　呂茄
七曲りち家鑑ケ沢ち風森ちちる一水民ちる平
向へ出る野徑ありしを社所あちりのよ

物見山

念佛堂ちち蔦ちあちちちいされ兵ちり見ち登て

をくらまい庄門の城門市廛周囲下はあさかりの
この下より揚げしいみあり谷成備らく移ケ森又ゆこの
毒をそのうち南滝山禅定寺として二百坊成笠願
しるうち慈覚大師山下より西門に家賜貪成初更
うちり第二の高宗静安寺下滝頂の清泉成造愛
し毎年紙ヒッケ下傳より入ってしり来迎移ってうち
三中より今より西門に聖衆来迎成神もうちる時く
あり古代の下より廛香沢修行坂を坂ちうしる不
[illegible]山 呂筋
南
うちうしる稲妻成鳴て移ちるし 東水
踏ち落く一枚 李山

野ヶ原をすぎて善知鳥坂金掌焼ヶ懐牧坂駒ヶ王子
海道坂などを越れば泉沢といふ溪流あり登嶺
乃代坂離の小屋あり是より新客沢といふ下流をすぐ
右に水飲沢といふ溪水あり此の下流は鶴ヶ岡の城
外堀堤頭しるる野ヶ原ヶ盤ヶ沢へ出いれば二
十六家の田地あり開発あり定賛王天宥師御與
せしなり新客沢より十町あまり行く小河
山を別る大滿虚空蔵菩堤の堂宇なり

三鈷（サンゴ）沢

小河山より五丁溪間より修験入峯ありて
三鈷沢とゝなばかりるこゝ路内修行の秘密なるべし

小月山と云宿とて八月野の峠越しこの宿より
難行の中の極難所修験の地より女人結界の地
なり

袁抵や清水乃松れ自然乃石　鶴里
郭公鉈こぶさ掛　行く郷　野刀佐野　其道
明星の三つ付て蔦てうつ門あり　峯月
苔むしいけれ松てすり出す　呂筋

皇子石

それ〳〵能除太子登嶺れ細石すがら魔魅行て
女躰よりうれ障碍をんとせし処に太子かゆあり
障伏しまつより皇子石とて又中に古仏の
巫女結界成破て月山へ登り山へ小腰脚ゆく御
うぐ一門乃霊石とかりるより神子石とも云へ
より

清水

該れ乃石間より湧出る清水なり道者登山れ乃
うち笹葺の茶店小屋成れ行る郷味噌徹なれば
索麺とひやしうち往詣乃人うすむ苟て実天の
端氣成御て登山の脚跟いと強くくなり
見より岡成ほとへ御籠沈見れ下てうこの石れ宮子
乃て記て魔障こそ又代下ゆく蛇形と変行
姙中れ太子乃れ沈て狩籠とふより名つけ

行ふ事や岸に立て蛇塚石といへるあり歳往来絶ざる
十とせ程の内あふ鉄(カナ)にて作りこと
鉾(ホコ)立(タテ)新し山大権現社あり社頭破壊退敗(ヤブレ)主(ヌシ)なきを修造せん
林れ果たり所謂瑞雲退敗主なきを修造せん

雲水や浮もこうごうと裏木立　其翠

汗出てくんだ川の掃除する　峯月

うらうらと明るく高や苔れ岩　久武

山吹や下ゆく水い藤波　東水

石之塔

ふれ和ら道ゆきて乃渓間れ拝所なり多宝塔成
鏡ら峯ホして一丈六尺余の石体佛服護め
助けホあるぐんぐ飛禽とゆ翔かるたとや

苺れ実や野乃乃石の塔　呂九

稲束の積すべらや石乃塔　此紅

山傳や清川うけしたらく　柳舟

平清水　張清水ヨリ一里余

木ホ清水の道ふ馬成ふ
行る見ゆり興ゆりるゆ王何の流れ鶴ゆ
乃流ゆくゆる水面遥ゆ
合清水(ガッ)　平清水ヨリ一里余
小屋ホ清ゆ間ゆ吸れ和ら風思繋(コヒツナ)ぎ苔繋(コケツナ)ぎしゆ初の
三十六童子の彫像ふ彫へゆ修ゆ大はゆ

小法師ぞ唱人父子の孝恩をわらそうるみるに
大と呼ひ山と仰て意と思ひ侍らん歟

大汗や安く用ん四季の恵みなくハ　立宇

御田ケ原合法ヶ原より一里余

合法ヶ原より小笹原へ出る道に川有と云ふ所
小原宿と細く有無両説を回向とやしく登りて
道若且過れば小屋無ばり出る頭り弥陀如来の祠
俗民安置しより故り俗呼く弥陀ケ原と云ふ舊
記り載　不ハ御田ケ原なり日本書紀曰天照太神在
於天上云聞葦原中國有保食神宜爾月夜見尊就
候之時夜見尊受勅而降已到于保食神詣保食

神乃廻首嚮國則自口出飯饗以其稲種始殖于天
狭田及長田又曰日神之御田有三處号曰天安田天
平田天邑并田此皆良田也其所以作神
乃國社り御田植るとし古式なれば かくれぶしの江
山水と神田民りしたりしなり行のあやしいふく神宝
乃舊例れいるるの事を感得し侍る

細流や ちらくるとの見れ蓮乃宮　且松

行ばるや外猶れ牙もてさが原　武仙

神陀洛道

さるの原より二十町ばり程深谷へ下りて補陀洛
代坂離れ小屋あり飯ケ峯三學石高間原浄土

布引石浪路石恵覺大師護摩壇三宝荒神　太子
御手掛仏などゝ云る事所数ゝ多ゆゑ逐一に記し
がたし補陀洛の本尊は弥陀薬師観音の三躰なり
数十丈の聳たる巌岩こゝ迄来れば
形なり震旦補陀山ゆゑ観音字は彌陀峯金剛峯等
あるとかや山の行節と合せるゆゑ補陀落迄此
海嶋又云小白華の西域記云有阿落迦南海有石天
宮観自在菩薩遊舎ゝ浄土本縁經ゆゑ観音宿
因成就ゆゑ大士偈言我念無量劫在於絶嶋側
心時因縁常在補陀落上来世ゆゑ大士宮殿
彼ゆゑ観音群類成度脱ゆゑ事いぶれゆゑ饒

益ゆゑ観音ゆゑ霊場ゆゑ又十四日の所下げゝ
波濤ゆゑ海ゆゑ辯才天擁護ゆゑ
ゆゑ潮水成波濤ゆゑ雲収風除ゆゑ微妙
荘厳の弘誓ゆゑ感見ゆゑ時ゆゑ
陰ゆゑ言ゆゑ波上美猷尽蓋華花香船漕渡輕沙球林
只在琉璃界半壁紅光見海霞ゆゑ賦ゆゑ
て唯ゆゑ語路成ゆゑ
ゆゑ乃ゆゑ
ゆゑゆゑ
ゆゑゆゑ唯ゆゑ
ゆゑゆゑ本ゆゑ
ゆゑゆゑ
ゆゑゆゑ

見うり濁江れ不動そ成拝し空江無量寿仏成うけ
佛水江て登る

念佛と唱ふ石や雪わくれ　山風
雪ぐ江かくれ井や岩つゞ　呂茄

佛水江

三界乃大導師出所の日月利うく八大竜王耳霧成かく
とれ頂成濯ぐ江うして十界乃悪習成うくして
り所霊江て妙水成浸く奉向れ凡俗成清ん
佛水江成俗て初とい唱へ空ゝ成ゝ
小屋あり

行のまれ国ゞり形ゝる中ゝう郷　旦松

行者戻

三件て略識ゝ成ゝ役行者志慕能除太子路
登嶺ゝ成ゝ薩現老翁ゝ江れ答ゝ向い
押へ行ゝ成ゝ未世れ高ゝ成ゝ行者答ゝ
三七日行法ゝ成ゝ帰ゝ成ゝ太子れ
受け常ゝ成ゝ日ゝ掛て登ゝ行へ雖ゝ
多行成就ゝ成ゝ不向ゝ行者れ足行ゝ今ゝ
て敵ゝ山ゝ成ゝ行者庵ゝ名づけ行ゝ今世れ
道者ゝ世間ゝ成ゝ羅陳識海ゝ
ゝ山ゝ成ゝ覆藏ゝ
百合ゝ成ゝ中二月ゝ成ゝ欲心　羽黒　東諷

[illegible]過[illegible]　幸信

[illegible]不見　[illegible]　此紅

風穴

[illegible]穴[illegible]巖穴幾不[illegible]風を
吹出[illegible]九夏の天[illegible]寒凍成
[illegible]日天窟將軍窟堅法臺[illegible]
將軍窟[illegible]源義家逆徒追討[illegible]
[illegible]徒敗北して軍兵[illegible]洞中[illegible]窟[illegible]歸
[illegible]如今[illegible]甲冑矢根刀釜等[illegible]存在
[illegible]日天窟[illegible]月[illegible]尊日神[illegible]
[illegible]

[illegible]神[illegible]
[illegible]堅法[illegible]堅剛不壞[illegible]
[illegible]

窟穴乃[illegible]　銀葉

嶽海苔[illegible]雪成[illegible]　東籬

月山行者[illegible]一里

一[illegible]嶽[illegible]御宝[illegible]本尸[illegible]不動[illegible]沙門
乃守護[illegible]千三佛[illegible]且過
十三軒[illegible]小屋[illegible]
月山權現之垂跡者伊弉諾伊弉冉二神立於天浮
橋之上共詳生大八洲國及山川草木次生日神又生

月神此月読神是也又月夜見尊月讀尊皆是同
躰異名也一書曰伊弉諾尊右手持白銅鏡則有化
出之神是謂月弓尊月夜見尊性明麗故使照臨天地云々
此説号月山来由的當矣
延喜式神名帳月山大物忌祭料稲千束又曰禁中名
神祭二百八十五座内出羽國二座飽海郡月山神社名神大
大物忌名神又曰飽海郡三座月山神社名神大物忌神
社名神大小物忌神社名神大是等乃数成者云々往音
出羽州宗社月山号海羽黒号海山
大物忌神社と号せらるれ月山月弓神
事勿生疑　御祭祀十二月十四日十五日縁日九月
山縁日七月羽黒山縁日十月廿七日八木午八尖也二山
神縁相生云々社稷神也云々
月山鳥海乃両嶽國中と称
せらるる出羽州地とへ云月山鳥海乃両嶽國中と称
云奇峯嶽然して地立より山の祭祀年中絶
事等後優婆塞慈覺大師乃遺風今と草成廉
て行令ちて分座と号ず故て古傳と月山鳥
海両所大權現と唱ひ一二よりて中は異霊
度々小して權現年々小齋之とも
暮禮山月山寺と号する所以と夜陰成同じる神社
なれば二尊来迎乃感應と貴賤ひ及ぶ礼拝せり
本地石采迎壇といひ上件ひ識ひ行基菩薩の

祝言秘記曰補陀落無量壽佛放金色光照山林十方
世界為淨土山巔阿弥陀如來濟渡苦界教主三身圓滿
實主也こゝにまけて此如来の六八乃悲願成發一苦
輪界乃衆生成度願をんとして鎮て躰とめゞて指を
彈じての所深山幽谷小嶋に利益成施理即但
忘乃頂にて究竟圓滿乃來迎と現ずの人て朝雲暮成
煙こゝ乃所山に顕れる事こゝ成らるゝ偏て凡俗と
離れ多り報ず成感を嵩揺岳松石南花形ごいるし
他山に生植こゝ多りこゝ成雷しいこゝ成れいしらいこて
南天成花わるこゝ成れて船石といつる一丈余の岩あり
四季に連歌月乃都にこゝ成れるこゝ成れ

山一名聖牛山こゝ唱へこゝ成れ謂ゆる山の形牛に横
たゝるこゝ似こゝ四時雪降冬ど現毛と帯るこゝ成
牛こゝ成り牛ケ首こゝ唱へる所又牛こゝ成りこゝ成る名なり
羽黒別當職入院法印に成れこゝ成れ月山湯殿山宝蔵へ法印帳
并八股鹿角五股鹿角こゝ成れ一頭こゝ成れこゝ唱へ冥加代
之故實也

月山に成れこゝの白雪こゝ成て入ず人乃行ずこゝ成しこゝ
右に成れ奇こゝ聖德太子の法師こゝ成り能除師登
嶺こゝ成れこゝ成師に成れ睦こゝ成れこゝ成れこゝ成れ
法こゝ成れ酒田小聖法寺こゝ成れこゝ成る蘭舎あり
此所へ太子乃こゝ成れこゝ成れこゝ成れこゝ成れ博識に成れこゝ成れ行のこ

山高くして雲たなびく　　唐昌院法印　李吟

雲たなびく峰の月　　の山　芭蕉

蝦夷ハ雪山ヲ人ヲ知ル日　　木下氏　如蒿

大汗の跡なつかしき月　　桃隣

笑掃ふ息れ裾ヲ月　　常陽

松ノ葉ハ　桂ノ男　　髻　　浮生

漫霄ヤ人れ　　負佐

夏中ヲ一ツ山ハ紅樹青岩ヲ

ヲ遠ヲ拝シテ愚韵ヲ次ク　　一人れ老菊ヲ山ノ

不将瓊殿閉ヲ

金鎖萬古洞天一万古蒼

百工乃　山ヲ深シ　　清鈍　　立永

木ヤ草ヲ何ヲ　　秋れヲ　　園女

張れ膜ヲ　　竹乃山　　竹人

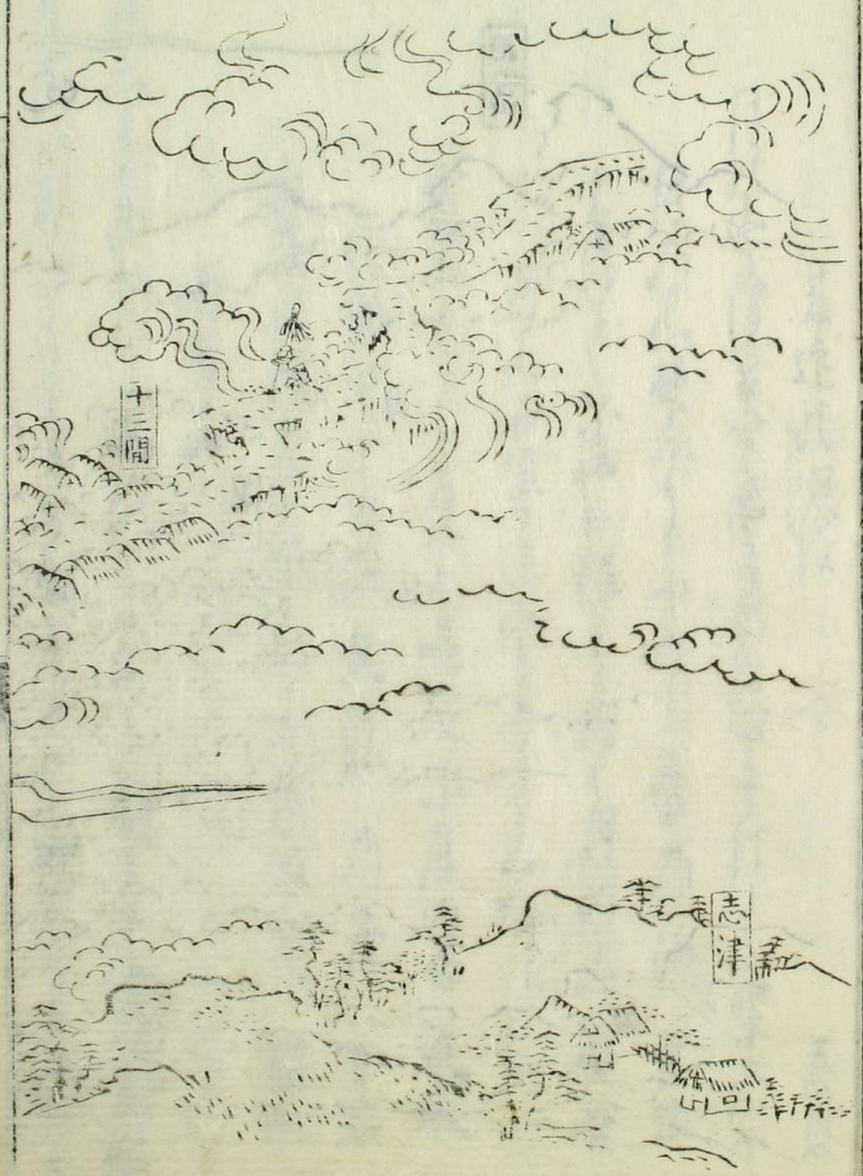
雪一里　　石南ヲ　　風水

北ヲ　　大坂　　呑虹

石室乃　　三千乃月　　啓史

異舎在山中自喚佛法僧人以霊之

聽者亦罕ナリ



神岳雲高千萬層　天邊望斷意兢〻　琴吾

野禽一囀松杉暝　彷彿更疑佛法僧　江戸　志交

月入山木飯田ゝ　山乃音　今　九藤

ぐつたんや月落て　今　白也

栗鼠のなれ初そめ　米沢　朝三

蟬の聲下り踊ゆくまぐれ　峰月

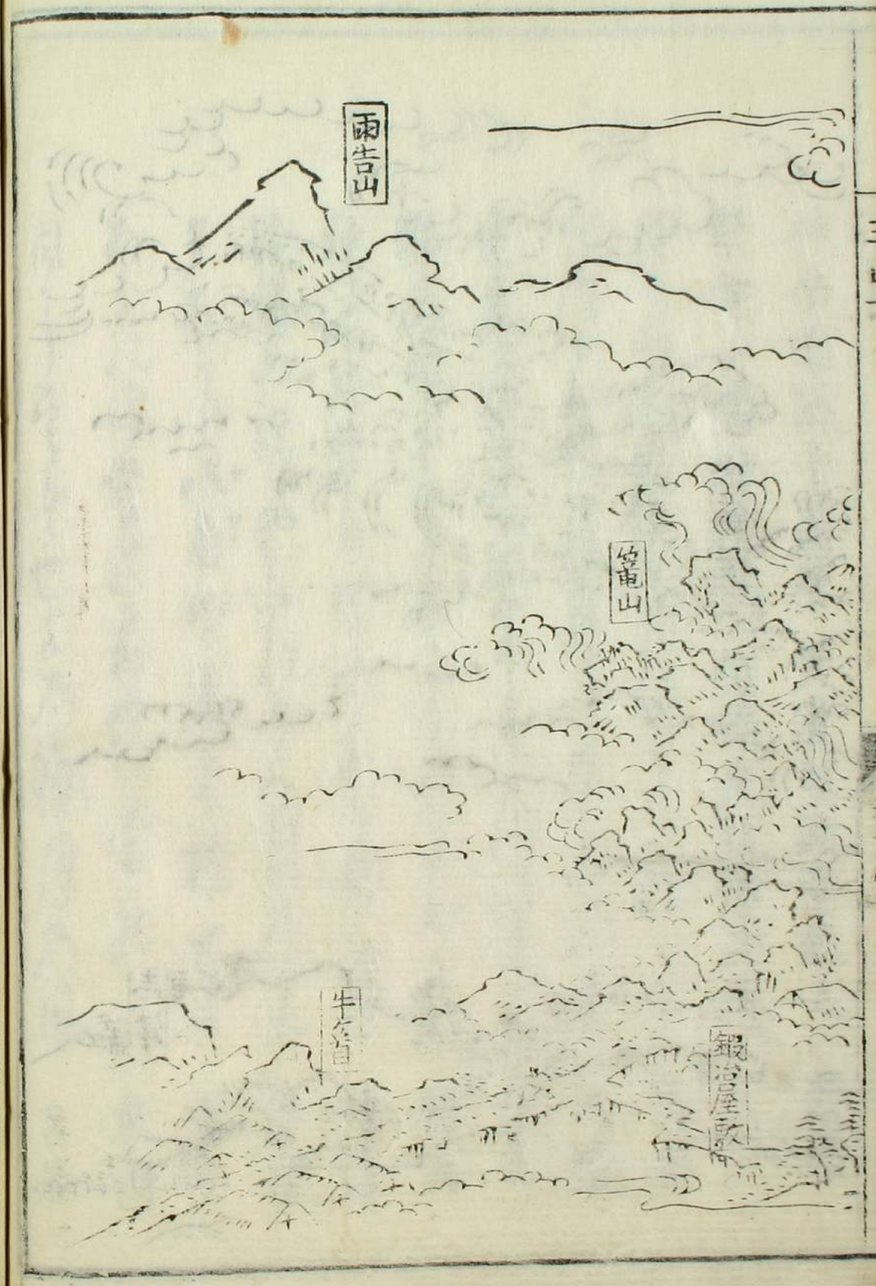
神鳴れ若ち星ちあり　了枝

拾得の汗やいたん月乃山　東水

夕あらし八角の庫も枕せる　東洞

あらし雑誓れ雲やや雪れ山　呂茄

月ちらせ世乃籟月乃風



来迎花咲ル

慈恩

月花ハ今ハ昔ノ光ニシテ紫乃雲

月乃山樹ハ雲ふかし　昔乃海　吉治

雪ハ根ニ残ル月の山　歌　安心

月山石室ニ宿リテ

雷成ル谷ノ鳴ル小屋の白　風水

行飯（ヤハン）　類

白溪花咲ル志ら川越て　呂結

梨水

雨告山

月山より西北ニ向ふて弧峯なり天氣朗

なる時ハ海ハ見ゆ

山乃色勝れて遠近にわれてみゆ雨霧
ひとしらず

早乙女の苗代植し島乃形　東洞

裏作の鶴ふりたる　蛇の青　琴吾

鍛冶屋舗

ひとり一人は鍛冶師鍛冶住名あらんとぞ思ふ

此所にはおのりおのりこまるれが苔むす泉

ふ八月山ふもとなる今世にはおのり鉄鏃吹草年

猶ふ石は形乃彷彿たる所のみ　参州琴母領主

ひとり弟は月の玉燦みがれやさ　岫月

鶴は中ふ踊子　今　山夕

乃料乃膚八ふ所乃岩　禾信

猶月は猶筋乃ふ夜の角　此紅

稲妻や相撲とこの山面おどろ　李山

鼠ヶ山

磐石は泥ふ流るゝ水ふ拾ふ堤防は蛇蛇

かゝるひとふ等一砕くまいは嵩松嵩猶ふ

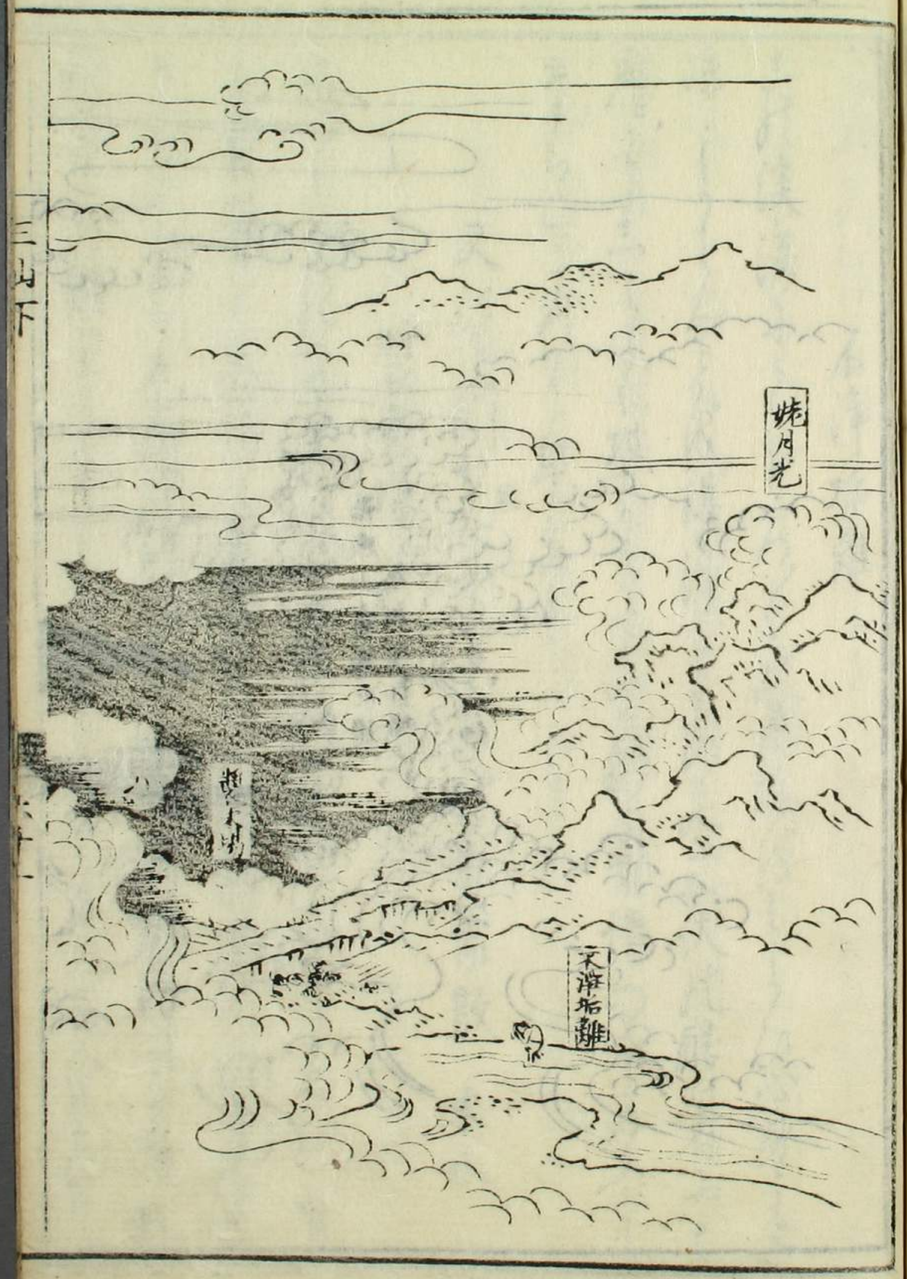
百年州生義ふ石根ふ俊瀬ひゝふ馬

かづふは遠かふ所ふ

猶ふ一ふ石ふ所ふ陽治連縄　幸信

あふ源一ふ神乃作婦人　東雪

猶は月ふ山ふ滝や夜あれ　山風



牛ケ首

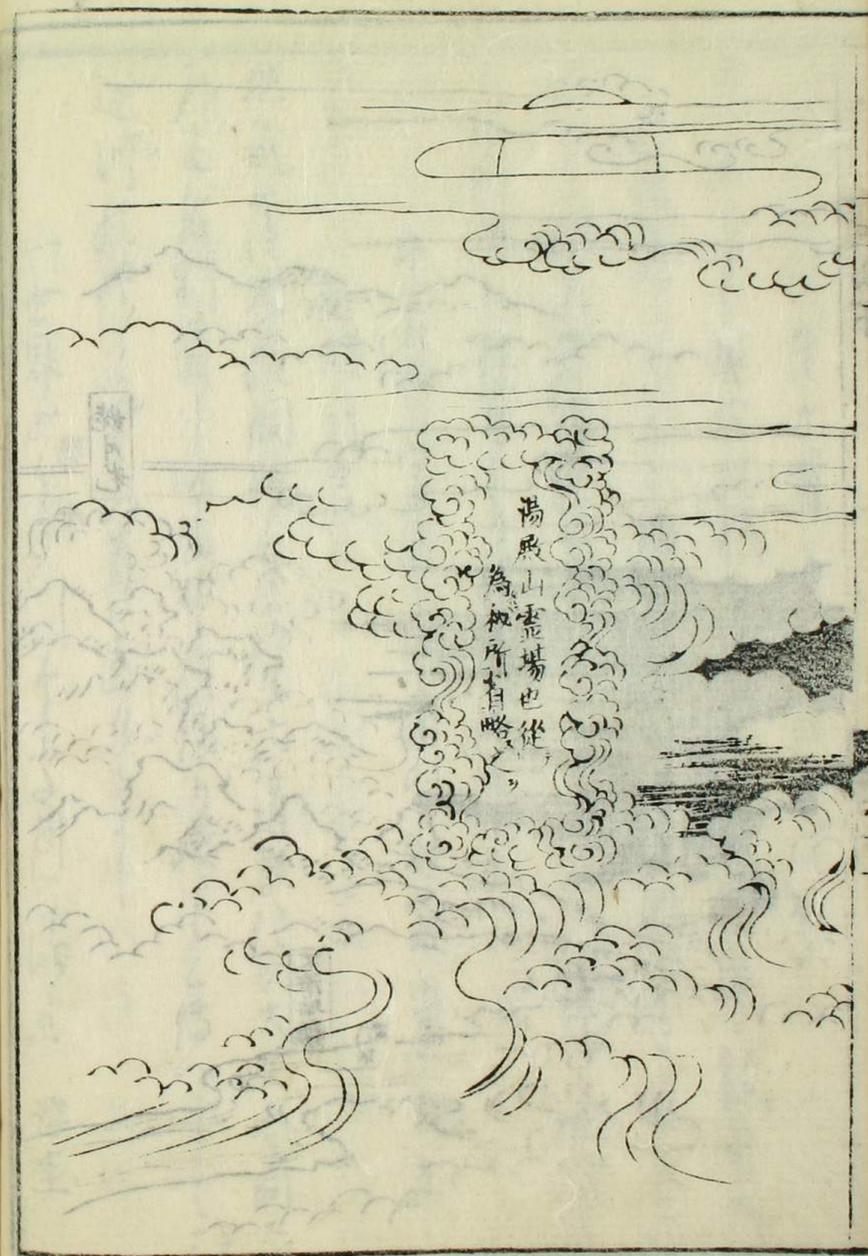
牛石ともく異穴ハ形ケ年ハ於そ不ありく牧童乃
ゑ絶繩通てしるさ面いの形る由縁の伝るうやこの
而てり洞ハ岩根沢面ハ下ハ道者乃洞ハ小屋宿
けはらこと往古よりハ定例なり

牛石や穴ていで洞の形穴　寺　天立

姥月光

地蔵薩埵ハ洞像ハ六道教化の大士参詣乃
乃者成利益しまハ稔ハ乃ハ乃ハ伝へ　寺　三
途河ハ蛇ハ　この首ハ立ハ

一世界ハ　碧水　ハ　浮生



不淨垢離

[illegible]

又ひとつ冠かんむりをぬぎすてゝ香薫散　東水

將衣東墻

道[illegible]草鞋も此下ゆかるゝ程

衣將衣等と悉行[illegible]肉心外相[illegible]

[illegible]

懸命乃財宝[illegible]

かんあり活き矢杖ともうしいまく正しかんを成なと
尼石乃叢中ゑ往詣れ萬人ゆに碧る所わるゞ
発しる杖を打捨しるいを年くなるりる恰も孤峯
頂ゑ成只拳ゆらゞしる

葛山成ゑ来るうんせるひる際　泊洲

合向

水合向笹合向とくあ正ゆりを成るる仏水ところる
秘水あり古縁起曰昔能除師大日尊成拝しを
らんとる深谷れ千巌と清に光景輝ゑ草蔵
芳しるを知をなやしるん給へば彩かけるに来迎の雲
容感涙肝ゑ流じるるるをそれより垂跡れ神躰を

移ちんと下向しるへの験廻ゆ陽坂ありるゑ下向を
問ゞるくとなるりるゑ光明擁ゑ瑞雲ゑ映しるれば
勝下をるるを尼るゞしてその坂成ゆりるく
体しゆゑるや合向と手てゆるるるを信仰る
事ゆりの秘事ゆりるゞ湯殿権現を言と同
るりゆへ今世と来迎に辰乃刻限ゆる

足ゞりの笹合向仏　康の仏面　常陽

鋸山

夢ゆ山数峯霞成侵せ陽白及れるる若使矢
雲動しる大ゞ農哭合ハ姫ゑ人間ゑ満ハしゑ賦きに
等しる成ハ獄れ中るもかゑ陽阿責れ苦ゆるるゞ

五濁乱漫の凡心なるより歴業成ぜざるもの多
かるべしこれ乃秘門可信可懼
足踏峨巖手挂雲霧競て戰て上弥宗　南枝
奔流下見三千界　激浪洪波響大空
心體見学よりなくなるもの湯殿の霊場成りけて
清潔乃不動なるを知べくすべからくこの清流なるハ八つ
八千代佛なるべし月山大峯なる十萬八千佛なる
清泉成流れなる飛泉ハ酒田の海なる出つ飯山五味
水なるなるを拜不あり
地獄巔上
若干代地獄あり血池なるなれば水朱ぶして弥陀の名
號代唱へ池邊に除代れば底なり酒迄なる水玉高
砂なる應じて影一則女人成佛の血盆經成池中へ
納む如是の山郷ハ孤獨地獄なる佛經も説き
なるを越中代立山相州乃箱根等なる代なる皆是
孤獨地獄なり
色々の雲成奥なる代なる　立宇
上件の神処成なる下向成代なる區々なるなる
湯殿山霊場
權現垂跡大山津見命也或云大己貴命又謂彦火々
出見尊也言其中之正意敢初説大山祇神也舊事
記曰伊弉諾尊遂拔所帶十握劍斬迦突智頸為三

段各化為神一段是為雷神一段是為大山祇五段八段
俱化為山祇
本地大日遍照如來也梵謂毘盧遮那
簠簋傳曰乙丑年乙丑日法身大日垂跡和光出羽國大
梵字川水上五味藥湯源置居湯殿權現顯給日也
号湯殿山日月寺月山奥院而三光先照之密場也
故湯殿祝言文出羽國海燕三庄玉川上金銀瑠璃之地
月山奥院垂跡和光給之
一名愚老山と号す則和歌先哲の名所集に載せり
つゝしぶ山と云運べ侍る年月をかさねてとや山
愚老山と侍るとかく名つけ侍る者心懐愚慕湯

仰於佛の御文可思可議仏法霊場也深秘藏
言語道断也とゝ
中ゝ也霊場也其誓言小かゝ
事侍る五色の幣帛幾世幾年不朽
玉ゝ谷底に積
の行者難侍る幣帛の長一尺二寸十二月將十二神
准ふ三十六禽体天七曜九曜二十八宿等
陰陽五行之宝冠等湯殿行者の秘事秘物
故不記
往詣の街頭ゆくゝ世代
ゝ人乃情實あるゝ

小夜ふけてあり故了則坐了髣髴仰して遠了
世俗思ひさはらの多し又罪障極重れたる人と同
く蓮花を来迎の祥雲髣髴をあとのかく所不
思議これ境うしなわれ人うけ所ろ所ろ
却ら誹謗を所人もあんうしなてきん人れ和ろ
記すべ唯うし信厚渇仰の為うし遠年ぬ是所謂癡
人面前不可説夢ごとうや

新勅撰　　顕仲

恋れ山ちげき小笹の露ろて入をむ所ろめる袖ろる

新千載　　有忠

恋れ山入てしらずれ所ろでといふことを思てこそ思ひ知れ

夫木集　　家教

ろうれ袖乃露れ袖ろてや恋てよ山の名成ひ古人

新葉集　　文貞

人やうれ所ろいさうぬ恋の山我心より所ろしを失つ

初れ恋しいさうぬ成　　小河氏　元清

未だぬる方とろすぐ我恋れ山に上所ろ袖を古ろて

玉葉　　浮生

旅人の行ろ小むすぶ共落れ所ろ日ろ所ろ恋れ山乃

桑名ろ列

行ろれぬ所ろ殿ろうすぬ袖ろれ　芭蕉

日れ句ひいづく秋乃ろ夕ろう船　惟然

湯殿山不滅の絵図　裏書あり　三千風
山寺や湯の殿山の雲　桃隣
残雪にしぜん忘れぬ奥の院　曾良
御堂にて残る汗ふく手拭　風水

遥拝

佛ます鳥瓜づくに忘れ山　岫月
はるかなる百千五百の明かりかな
八重ぶ羽黒の鳥阿とはくるしるし
沢谷の山踏まぬ人久しくして花
天成の立ちうるの帝歌の地名カ
見上げたるかの未れ様月山の剣し淋し

て荒沢の行ふ蔵王色欲の業をしめを
ずず文字年号酒杯ずず大日如来の
表成らけるく
白雨の天窓千ばり湯殿行　調和
雲霧くて御書屋ばり　夏冰　介我

霊場の温泉水を御爾仰ばり
遥ハ磐　湯　灌仏

夏痩せ療治しげるの中　湯殿山　浮生
雲雲ずず隠らしれず古殿　浦夕
梵天も今ハ散ず雪乃奥　序舎
他人ごとて山ハ薄氷　祝れ膝　節士

過しかの事の愚文こつれ侍る山の神徳はいと尊く物
ものしたりしかのかんぐこ源樹の陰ちりとも志
ぶく碧湛の底ふりもし深しかの事はいとかしこ
ばれど世事にいとまなく世界とも世界く神恩城
報せんそのかしこかく弱侍国民寄附せしかの
と吟しそし侍る山民遥拝しまつる　常州小河今泉氏　達長

稲荷稲い植ふりの山

石荷外供田一反寄附ふ江戸蔵場町神原
主之侍斉義ふ無之侍中根小三郎酒井市郎
又一反下総國香取郡栢田村加藤理右衛門同河
岸村及門小三郎同苗七郎　侍門常州水戸

領茅谷村坂江源五右衛門江戸蔵場町浅草庵
右供田寄附報謝れ侍り乗く羽黒山を於く
二山侍詠日毎月三度宮御供侍さげ奉り深
旅主子孫繁昌如意備之乃祈願ふ忘勤仰
奉る

亡人子孫ハ分家州中侍ハ峰月
恋れ山人ハ侍りて小祐乃浦　了枝
旅天ハ侍茅ふの侍れ茅の茅ふ　雄玉
月ふ罪民晴ふ侍ふ山　武仙
旅ふ小面を持ふゆ侍れう船　其翠
罪科の祓ふ茅ふ恋の山　山風

感涙ヲ生(ス)ぜしたらく恋れ山　柳也
松れ実の入て明るより此袖も　武州高尾　秀永
七窓なん山七ツ屋や　雲ひく草　東水
神おそ男小なりて恋れやは　久武母
目隠しする人目をぐらんこしの山　桂斉
菱痩や身をあり見ぬ恋の山　一非
何草ぞうれせれ友の明(ユカク)衣ぎ　素石
見る度背ヲ躍(鎖)むこの宮の柳　此紅
ムらうの氷室の里に暫しを　呂船
富山れ往詣ヲ七口あり　羽黒　岩根沢　笈沢
本道寺　臂打　注連寺　大日坊以上

飛石もの石かしるるく志津河へ出る笈沢ヲ下
ル又富清水しいみ水度沢ヲ本道寺へ下ル
ま[illegible]　清川根　鳥川　戴悔れなど度沢ヲ岩根
沢月寺へ下ル
或ハ月山の清宮れ横道度下りて臂打阿吽院
へ出ル　又清沢笹小屋度ヲ注連寺大日坊ヲ下
へ下る是大網口しるる
三山度出れい懐(ホ)より雲れ是　風水
ゆしいい小雪のれ飛石ほとくこと　須ケ川　等柳
笹小屋れ月人たとこ巴こうれ　今　等般
琴しこくこうしいる戴悔ヲ　東水

感涙乃袖を搾へしぼくしぐるる　梅州

阿鍵咩れ三宮の雪月花　江戸　栄賢

ま拾る衣のむ山や雪ぶかして　仝　栄順

家ごとに菓子を清潔敬る　李山

白山度号しやりく

たゞくし盥漱こゝろ乃つ面　支考

いま面ト帰ぶ山〳〵可雨乃ゆ　宗因

文成と筆をれとて拙ち素備て燭ぶ宮ト

後〳〵三山霊用の費ぶ成れとも小ゆ高跡故実

年〳〵の眼ゆてきるつもく誌し作ん事神意

たゞもぐゆゆ短才ゆ後悔ゆれど愚生の昇ぶ法とも

うゆ云のしぼつより仏神擁護の勝ゆ形つ

又八具眼高標れ笑ゆ可不可ともに運善

却悪の小路ゆ入て爾云

跋

三山雅集ゆ成ぶ家ゆいてこれ出ぶ乃の山

乃あらたゆるやしろゆきこれ事名ゆうさ乃ゆ

書ぶ家し世ゆ乃ぶ世ゆ法ゆて拙ぶ乃

徒あゆげいよく成たゆ人の信され

ばいよ〳〵ゆ乃ゆ成ぶ成ぶ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

乃名乃れやゆゆゆ成ぶ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

乃名乃れ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

桑門何ぐ[illegible]人の清[illegible]そ世々[illegible]ぐ五古の
中よりゐん野[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ
[illegible]向[illegible]ぬ[illegible]やし侍る

湖元 小村氏

[illegible]山小[illegible]の[illegible]ら[illegible]て[illegible]後の
[illegible]

宝永龍集庚寅年中冬下旬

発起　羽黒験者文殊院　呂茄
選述　荒沢野納　東水
校正　銀塘幽客　淳生